

## 「ぶらさ da わかば」 第2日目 12:30-13:30

担当：大平幸・高村めぐみ・平山允子・毛利貴美（文責）

日本語教育学会のチャレンジ支援委員会が実施する「ぶらさ da わかば」では、日本語教育を学ぶ大学生・大学院生の方、日本語教育に関わり始めたばかりの方、研究を始めたばかりの方など、「わかば」な人と、先を歩いている「センパイ」が交流する機会を提供します。

2022年11月27日の日本語教育学会秋季大会で第13回目の「ぶらさ da わかば」が、これまでと同様に新型コロナウイルスの影響によりオンラインで実施されました。センパイ登録をしてくださっている会員の中から、7名の方にセンパイとしてご協力いただき、事前に応募された8名のわかばさんとの対話セッションを実施しました。ZOOMのブレイクアウトルーム機能を利用し、センパイ毎の7つのブレイクアウトルームにわかばさん1～2名が入り、チャレンジ支援委員会の委員5名が万が一のトラブル等に備えて、ブレイクアウトルームを行き来して見回りました。その間、メインルームには1名の委員が待機し、「各ルームに残り時間を知らせる」「各ルームに常駐している委員からの進捗状況を確認しながら全体を把握する」という体制を整えました。



本イベント後に全体を振り返りますと、まず、わかばさん、センパイが指定時間の前に全員ご入室くださり、通信環境に不具合等のない環境を整えてくださったおかげで、スムーズな運営ができました。セッションでは、センパイとわかばさんが、研究や実践の話、キャリアの相談、体験談などについて自由に対話され、話が尽きない様子でした。

事後アンケートでは、ご参加いただいたわかばさん・センパイ双方から高評価をいただきました。特に、わかばさんからは「オンラインの学会では新たな出会いがほとんどないので、このような機会をつくっていただき、とても助かります。」などオンラインでもセンパイと出会えて相談できたことや、「これまで日本語教育以外の分野にいた者にとっては、大変ありがたい機会でした。」など、参加しやすいイベントだったというコメントがありました。一方で、「（ZOOMで1対1になるのではなく）わかばさんは2名以上いたほうが話しやすい」というコメントもありました。今回のわかばさんの参加可能人数にはかなりの余裕があり、1つのブレイクアウトルーム以外は、センパイ1名に対してわかばさんが1名だったため、チャレンジ支援委員会内での検討課題が残されました。

オンラインでの開催は、どこにいても参加できるという利点がある一方で、非会員のわかばさんなどに情報を確実に届けることの難しさがあります。日本語教育のこれからを作っていくくださるわかばさんたちに、センパイと出会える機会を確実にご提供し、日本語教育分野の活性化に貢献できるよう持続的な運営を目指していければと思います。引き続き、本企画へのご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。